

地域保健より見た青年女子及び 妊婦の貧血の調査とその指導

伊 藤 桂 子 (愛知県衛生部)

はじめに

第一報においては、昭和46年から昭和54年までの愛知県知多保健所管内の妊婦貧血の実態について報告したが、妊娠中の貧血は比較的妊娠の早期から出現しており(妊娠4か月Hb 11g/dl未滿12.4%)、かつその程度がかなり強いものも認められる(妊娠4か月Hb 10g/dl未滿2.7%)ことから、妊娠する以前からすでに貧血あるいは貧血傾向にあったことが推定されるので、今回は保健所事業の中で把握される妊娠前の対象に対しても調査を行った。

I 妊婦及び青年女子の貧血に関する調査

1. 表1に昭和55年度の知多保健所管内妊婦健康診査票上に記載されたHbの分析結果を示すが、55年度においても、妊娠4・5か月ですでに11g/dl未滿のものが11.9%に認められた。

2. 表2は当管内C市の55・56年度の新婚学級、婚前(婚約者)学級出席者のHb分析結果であるが、Hb 12g/dl未滿のものは、新婚者では8.2%に、婚約者では5.1%に認められた。

3. 表3は女子高校生についてのHb分析結果である。55・56年度調査結果をあわせてT普通高校はHb 12g/dl未滿のものは5.9%であった。一方H昼間定時制高校では兩年度ともT高校に比し貧血者の割合はやゝ高く、兩年あわせて9.3%であった。

4. 表4にC市立中学3校の女生徒についてのHb分析結果を示す。3校ともにかなり強い程度の貧血者が認められ、Hb 12g/dl未滿のものは全体で6.9%であった。

5. 以上の如く、妊婦貧血の原因の一つとして、妊娠する以前、すなわち高校や中学時代からすでに貧血であったり、貧血傾向にあったものが自覚症もないまま放置し、そのまま妊娠に至っている

ことが推定される。

II 女子中学生に関する調査

1. 貧血実態調査

(1) C市立中学3校の女生徒1329名について学年別にHb値を分析すると表5の如く、学年が上昇するにつれて貧血者が増加していることが認められた。すなわち、Hb 12g/dl未滿のものは1年3.7%に対し、2年5.8%、3年13.6%であった。

(2) 表6にC市立C中学校女子のHb分析結果と表7にその他の貧血に関する血液検査結果を平均値で示した。

2. その他の調査

学年が上昇するにつれて貧血者が増加していることから身体発育や月経あるいは日常生活・習慣等がこれに関係していると考えられるので、C市立C中学校の女生徒320名(内Hb 12g/dl未滿35名)について以下の調査を行った。

(1) 食生活等日常生活の調査結果を表8に示したが、貧血者が少数であったため有意差は全項目に認められなかった。しかし貧血との関連の上で興味ある項目をみてみると、この対象では特に食事上の問題は少ないが、就寝時間が比較的遅く、睡眠時間が短い傾向にあった。

また運動部に所属する生徒の方に貧血者がやゝ多く含まれる傾向にあった。

(2) 月経との関連をみたのが表9である。やはり有意ではないが貧血者は月経来潮者に、また初潮年令の早いものに、そして経血量の多いもの、凝血のあるものに多い傾向が認められた。

(3) 発育との関係をみるため、3年生79名(内貧血群19名)をとりあげ、身長と体重について、1年から2年、2年から3年、そして1年から3年へかけての増加量を調査したのが表10、11である。全国値や正常群に比べ貧血群はその成長が早期に偏っている傾向がみられた。

(4) 家族の貧血者の有無を調査したが、家族内に貧血者があると答えた69名中に貧血中学生は10名(14.5%)、なしと答えた244名中に貧

血中学生は25名(10.2%)含まれており、貧血は家族全体のものとして把握の必要性がある。

5. 貧血者に対する栄養調査を国民栄養調査に準じて行ったが、この調査は貧血教室による栄養指導後に行われたのでその出席状況別に分けてみると、表12・13の如く、所要量(出席分類別にその年齢別所要量を出して平均した)に対する比率は、親子で貧血教室に参加した群に比べ子のみ参加した場合、特に親子ともに不参加の場合は低く、アンバランスが目だっている。

(6) 図は貧血者35名の4か月後のHb値の変化であり、鉄剤を服用した場合はもちろん服用しないで食事に注意した群についてもかなりの改善をみた。

なお第一回の検査値より低下した一名は第一回検査直後父が死亡し、十分な指導が行なえなかった。

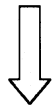
お わ り に

妊婦貧血の原因は水血症等妊娠に伴う変化によ

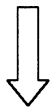
るもののほか、すでに貧血状態にあったものが、妊娠することにも原因があり、本来、妊娠中の貧血予防はむしろこの部分の対策が重要である。

近年女子の体位が向上し、月経発来が早くなってきており、このため中学生にすでに貧血傾向を示すものが存在する可能性が予測されていたが、今回の調査で中学1年生ですでに貧血が始まり、学年が上昇するにつれて貧血者が増加していること、特に発育がよく初潮年齢の早い生徒の中に貧血者が多く認められる傾向がうかがわれた。

また貧血者に対しては、栄養指導、生活指導を行ったが、中学生においては、未だ身体的にも機能的にも発育途上であり、今後なお貧血になりうる可能性が十分あり、貧血者のみならず生徒全員に対して特に貧血者の多くない中学1乃至2年生を対象として、貧血予防を含めた母性保健教育を行う必要がある。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



はじめに

第一報においては,昭和46年から昭和54年までの愛知県知多保健所管内の妊婦貧血の実態について報告したが,妊娠中の貧血は比較的妊娠の早期から出現しており(妊娠4か月 Hb11g/dl 未満 12.4%),かつその程度がかなり強いものも認められる(妊娠4か月 Hb10g/dl 未満 2.7%)ことから,妊娠する以前からすでに貧血あるいは貧血傾向にあったことが推定されるので,今回は保健所事業の中で把握される妊娠前の対象に対しても調査を行った。